

YOKOHAMA

# ゴム技術がだしたユニークな解答。

世界で初めての『空気式防舷材』を開発したのは「ヨコハマゴム」。

今日では数かずの種類の防舷材も開発されて、ヨコハマゴムの防舷材は、七つの海で活躍しています。

さまざまな分野で

グローバルに、そして未来へ。

世界で初めての空気式防舷材の開発に象徴されるように、ヨコハマゴムの先進的総合ゴム技術は、さまざまな分野でその確かさを示しています。たとえば、13,136mという世界最大機長のコンペヤバルト、各種産業機器に欠かせない油圧空圧ホース、最高の精密度が要求される航空機部品、そして2,000種類をこえる自動車タイヤなど、その主力製品はグローバルな評価を受けています。

ますます高密度な技術とノウハウが要求されるいま、ヨコハマゴムは、その実績と可能性のすべてを明日の人間生活に焦点を合わせ、さらに考え、行動しています。

船舶にもソフトタイプの空気枕が必要だ——ヨコハマゴムの発想。

1958年、世界で初めての空気式防舷材をヨコハマゴムは開発。それは「吸収エネルギーが大きく反力が小さい」「接触面積が大きく面圧が小さい」「耐久性にすぐれている」など、それまでの防舷材では得られなかった数かずの特徴をそなえていました。開発と同時にわが国の南水洋捕鯨船団に採用され、クジラに代わってみごとな活躍ぶりを示しました。この事実は、タンカーのマンモス化するなかで世界のメジャーオイル会社の注目するところとなり、



ジャンボ・フェンダー

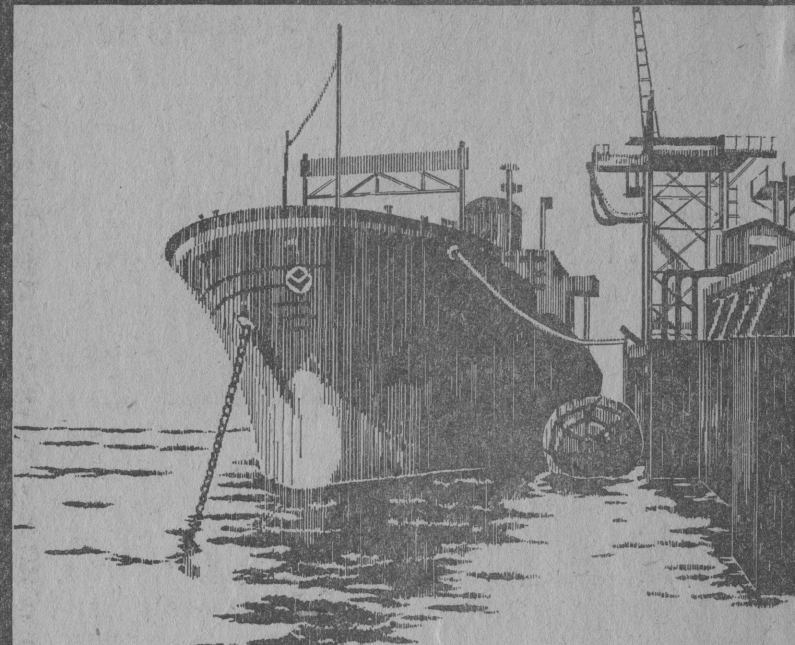
文藝春秋

S.54. 7月号

横浜ゴム株式会社

# 船や岸壁にも、クッションがほしい。

安全な接舷や接岸を、だれもが望んでいた。



船舶が岸壁に着くときや停泊しているとき、あるいは刻々と条件の変わる洋上で船舶と船舶とが接触するときなどに、岸壁をこわしたり船腹をへこませたりしないためのクッションのことを防舷材といいます。一般にはあまり知られていませんが、大型タンカーの瀬取作業、鉱石船の積み替え作業、さらには港湾建設費の削減、作業の安全性、二次災害の防止などに不可欠な存在となっています。

かつて南水洋上ではクジラが防舷材として使われていた。

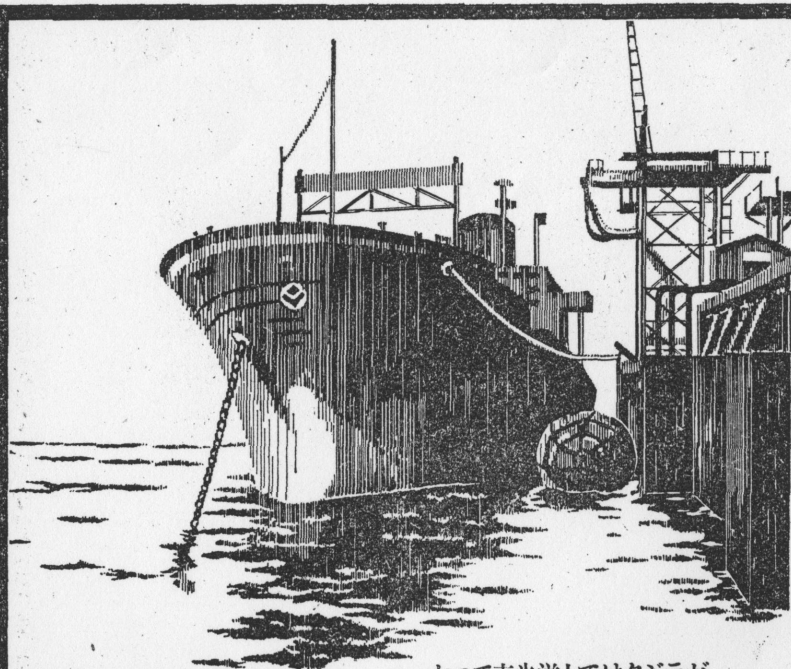
ところで南水洋上では、かつて捕鯨母船に補給船やキャッチャーボートが接舷するとき、クジラを防舷材として使っていたというのですから、なんともったいないお話。ヨコハマゴムの技術開発陣がこの話を聞いたとき、すぐひらめいたのがタイヤと航空機の燃料タンクづくりの緻密なノウハウだったのです。



ゴム技術の進歩は、ヨコハマゴムの歩み。②

# 船や岸壁にも、クッションがほしい。

安全な接舷や接岸を、だれもが望んでいた。



船舶が岸壁に着くときや停泊しているとき、あるいは刻々と条件の変わる洋上で船舶と船舶とが接舷するときなどに、岸壁をこわしたり船腹をへこませたりしないためのクッションのことを防舷材といいます。一般にはあまり知られていませんが、大型タンカーの瀬取作業、鉱石船の積み替え作業、さらには港湾建設費の削減、作業の安全性、二次災害の防止などに不可欠な存在となっています。

## かつて南氷洋上ではクジラが防舷材として使われていた。

ところで南氷洋上では、かつて捕鯨母船に補給船やキャッチャーボートが接舷するとき、クジラを防舷材として使っていたというのですから、なんとももったいないお話。ヨコハマゴムの技術開発陣がこの話を聞いたとき、すぐひらめいたのがタイヤと航空機の燃料タンクづくりの緻密なノウハウだったのです。



ゴム技術の進歩は、ヨコハマゴムの歩み。②

文春秋 S.54. 7月

YOKOHAMA

## 船舶にもソフトタイプの空気枕が必要だ——ヨコハマゴムの発想。

1958年、世界で初めての空気式防舷材をヨコハマゴムは開発。それは「吸収エネルギーが大きく反力が小さい」「接触面積が大きく面圧が小さい」「耐久性にすぐれている」など、それまでの防舷材では得られなかった数かずの特徴をそなえていました。開発と同時にわが国の南氷洋捕鯨船団に採用され、クジラに代わってみごとな活躍ぶりを示しました。

この事實は、タンカーのマンモス化するなかで世界のメジャーオイル会社の注目するところとなり、

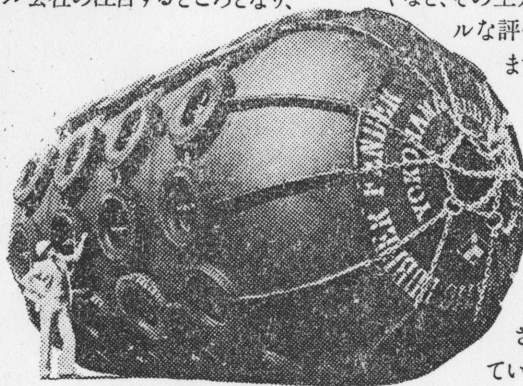
今日では数かずの種類防舷材も開発されて、ヨコハマゴムの防舷材は、七つの海で活躍しています。

## さまざまな分野で

## グローバルに、そして未来へ。

世界で初めての空気式防舷材の開発に象徴されるように、ヨコハマゴムの先進的総合ゴム技術は、さまざまな分野でその確かさを示しています。たとえば、13,136mという世界最大機長のコンベヤベルト、各種産業機器に欠かせない油圧空圧ホース、最高の精密度が要求される航空機部品、そして2,000種類をこえる自動車タイヤなど、その主力製品はグローバルな評価を受けています。

ますます高密度な技術とノウハウが要求されるいま、ヨコハマゴムは、その実績と可能性のすべてを明日の人間生活に焦点を合わせ、さらに考え、行動しています。



ジャンボ・フェンダー

文春秋

S.54. 7月

横浜ゴム株式会社

世界で初めての『空気式防舷材』を開発したのは「ヨコハマゴム」。

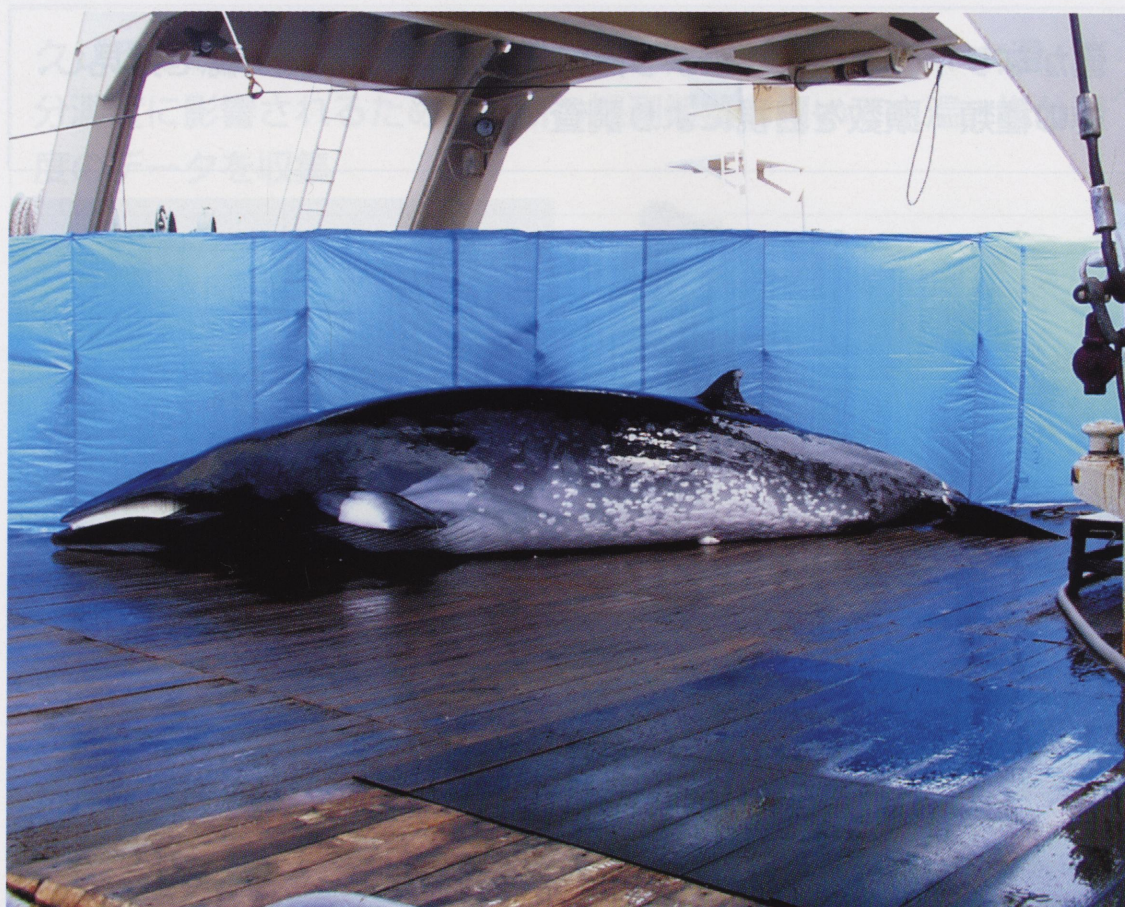
# ゴム技術がだしたユニークな解答。

# 北太平洋ミンククジラ (*Balaenoptera acutorostrata*)

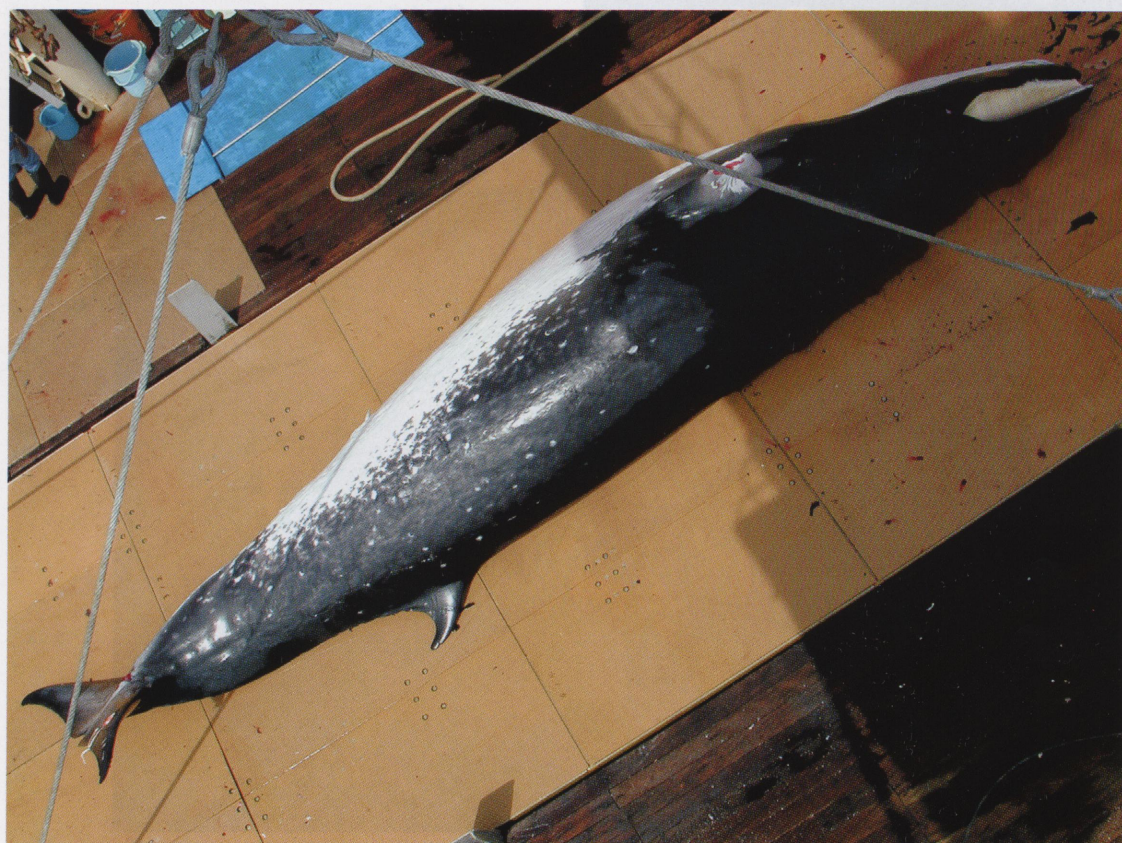
(体長 7.17m ; 雄 ; デッキ上)



# 北太平洋ミンククジラ (*Balaenoptera acutorostrata*)



体長 7.17m 雄 デッキ上 (第9区 2000年8月15日撮影)



体長 7.53m 雄 体重の測定 (第7区 2001年6月13日撮影)

# ニタリクジラ (*Balaenoptera edeni*)

(体長 10.28m ; 雄 ; デッキ上)



## ニタリクジラ (*Balaenoptera edeni*)



体長 10.28m 雄 デッキ上 (第7区 2000年8月25日撮影)



体長 10.12m 雄 プロポーションの計測 (第7区 2001年5月29日撮影)

マッコウクジラ (*Physeter macrocephalus*)

(体長 8.17m ; 雌 ; デッキ上)



# マッコウクジラ (*Physeter macrocephalus*)



体長 8.17m 雌 デッキ上 (第7区 2000年9月5日撮影)



体長 9.71m 雌 体高の測定 (第7区 2001年6月1日撮影)